

ひと情報

★退職したら、ただの人に

年齢にとらわれず、自らの責任と能力により自由に生き生きとした生活を送ることを実践している人を紹介する、内閣府主催の平成三十年度エイジレス・ライフ実践事例に選定され、エイジレス章を受けた福森宏昌さん(79)(虹ヶ丘二丁目)が十月三十日、市川市長へ受章報告。「定年後に切り替えてやってきたことが形になったのはありがたいです」と話した。

日立製作所を退職後、「健康生きがいがいづくりアドバイザー」として幅広い分野で活躍中。特にシニア



世代を対象とした『NPO法人シニアネット光』を結成して理事長を務め、パソコン教室を開くなど、ICT(情報通信技術)まちの助っ人隊として活動している。

さらに、虹ヶ丘東部連合自治会会長を務め、平成十八〜二十四年は県立大学の教壇にも立ち、若い世代へ生涯現役論を担当。県主催の会議のコーディネーターも行うなど、地域だけでなく、全国的に幅広く活動している。

懇談の中で、「男性は会社時代のことを引きずり、評論家になる人が多いですが、退職したら切り替えて、ただの人になる。それで地域活動に参加すれば、仲間づくりにして楽しめると思います」「健康生きがいがいづくりアドバイザーでは、六十五歳で義務教育ということになっていますが、どうやって百歳まで生きるか考えないといけない時代。学ぶのに年齢は関係ありません」「地域活動の情報提供はネットでできますが、お酒を飲んだり、交流して仲間をつくるのはネットではできない。道具が大事じゃなく、使い方が大切なんです」などと話した。(通)